

太子高校の飛翔 その 13

「学校評価」を活かす

本年度は、太子高校の「飛翔の年」と位置づけて、「翔る」を合い言葉に教育活動を展開します。この通信で本校の取組みについてお話することで、太子高校が飛翔する様子を知っていただければと考えています。

平成 28 年度の学校評価最終結果が報告されました。生徒・保護者・教職員の三つの立場から、太子高校の現状を評価してもらうものです。学校の通知表のようなものですね。

その項目の中で、肯定的な生徒評価が各学年で 80% を超えたものが二つあります。「太子高校はセミナーや進路指導が充実しており、自分の進路を実現できる環境である。」「太子高校の進路ガイダンスや教師の助言は自己の進路を実現させるのに役立つ。」総合学科としての太子高校の取り組みは、具体的な自己実現に大いに役立っていると、生徒が評価してくれました。また、「太子高校の先生方は部活動の指導に熱心に取り組んでいる。」という項目には、1, 3 年次生が 80% を超えて肯定的です。2 年次生は 78.8% でした。ほとんど差はないといえるでしょう。「進路=自己実現」と「部活動」この二つがバランス良く機能していると感じているからこそ、「太子高校は楽しい」「太子高校に来て良かった」と生徒が口々に話してくれるのだと、改めて確信しました。

一方、教師はどう感じているのでしょうか。「年次毎に進路実現を目的としたセミナーを行うとともに、進路模試を実施し、その成果を有効に活用している。」という項目の評価の平均は、4 段階の 2.4（あまりできていない）です。この質問には 3 つの要素が含まれていますから、先生方がどの要素がまだまだだと感じられているのかは不明です。しかし、生徒にとって最も適切な進路実現はどのようなものかと常に問い続け、現状に甘んじることがない本校教師の姿が見て取れます。その思いが伝わっているからこそ、生徒からの高評価だと思うのです。平成 29 年度は「生徒の自己実現」に関する先生方の評価を高める工夫を考えます。それがきっと、「キャリア教育」の旗を掲げる総合学科・太子高校の深化に繋がることでしょう。

ONE SHOT



正門の所に、いわゆる「飛び出し坊や」が安全を守ってくれています。名前は「まもるくん」。写真では読めないのですが、「贈 相生産業(定)」と書かれています。そうです。県立相生産業定時制の生徒さん方が作製されたものを、ご縁があって頂いたものです。この時、「まもるくん」は二人来てくれたのですが、近所の自治会長さんから、「まもるくん」に町内の交通安全を見守って欲しいという申し出がありました。今は、二人でそれぞれの持ち場を守ってくれています。頂いたご縁が、町内で暖かく広がっています。

学校のカ・イ・ダ・ン

他校で行われたSSH発表会に、本校の生徒 6 名が出席しました。発表後の質疑応答では、本校生が臆することなくさっと手を上げて、深い内容の質問をしたと、引率した教員から笑顔で報告がありました。「総合学科で学ぶと、こういう力が身に付くんですね。生徒の成長が実感できました。」と。同じ高校生の発表から、大いに刺激を受けて帰ってきた 6 名でした。皆様、お世話になりました。